

3. 3つの将来シナリオ素案等について

1 目的

本年5月には、これまで御審議いただいた結果をまとめて基本計画見直しの「中間とりまとめ」として広く市民に周知しパブリックコメントを得ることとしている。その際、市民に「3つの将来シナリオ」を提示し、それぞれのシナリオについて市民や専門家（ビジョン部会）に意見を求め、答申に盛り込むごみ減量施策の参考とするため。またあわせて現在の「あなたのライフスタイル」を問いかけ、自らチェックしてもらうことにより、ライフスタイルを考える契機としてもらおうとするもの。

2 内容

3つの将来シナリオ

ライフスタイルの選択によって、典型的な3つシナリオを用意する。3つのシナリオのイメージは次のとおり。

シナリオ1 従来トレンド型（行政にすべておまかせ型）

シナリオ2 ライフスタイル改善・斬進型（市民・事業者連携、行政サポート型）

シナリオ3 発生抑制強制型（市民・事業者の自己責任・リサイクル型）

あなたのライフスタイル

ある家族3人が、街に買い物に出かけ、行く先々で生活に密着したごみ問題や環境問題について話し合う。それぞれのテーマについて選択肢を3つ用意し、選択肢ごとにエコポイントを設定する。

エコポイントの総計が高いほどエコライフ度が高いとするもの。

物語風に進行。最終的にはマンガ等を用いて、より分かりやすく表現する。

3 シナリオ等の活用方針等について

将来シナリオ素案、あなたのライフスタイル素案をたたき台として、部会、審議会で検討を重ねた上、それぞれの最終案を作成する。

5月中旬に予定している第2回ビジョン部会に将来シナリオ案を提示し、専門家から見た京都の将来シナリオとしてどれがふさわしいのかについて検討していただく。

第2回ビジョン部会開催と同時に「中間とりまとめ」についてのパブリックコメント（ご意見募集）を開始し、あわせて3つの将来シナリオを市民に提示して、京都に相応しいシナリオを選択してもらうとともに、それぞれのシナリオについて意見を求める。

同時に自らの今のライフスタイルをチェックしてもらい現在のライフスタイルを考える契機としていただく。

市民・専門家の意見を踏まえて、基本計画見直しの「答申案」を策定する。

3つのシナリオの基本的コンセプト

従来トレンド型

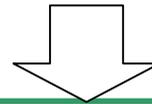
➡ 市民はこれまでどおりのライフスタイルを継続。分別排出されたものを行政が引き受けて従来型の焼却・リサイクルを実施。

ライフスタイル改善・漸進型

➡ 市民と事業者が連携して3Rを実施し、行政がこれをサポート。なお残ったごみは行政が非焼却型を基本に最大限度リサイクルを実施。

発生抑制強制型

➡ リサイクルは自己責任として市民・事業者が実施。なお残ったごみの処理についても行政から民間事業へ移行。



従来トレンド型

市民はごみの分別をしっかりとやれば、後は行政が税金で処理・リサイクル
収集後の処理は、従来型の焼却・リサイクルをベースに、エネルギー回収等のリサイクル機能を徐々に高度化
分別収集や施設整備に必要なコストは増大する

言わば

行政にすべてお任せ型

ライフスタイル改善・漸進型

市民ができることからライフスタイルを改善するとともに、市民・事業者が連携し、リペア、リユース、リサイクルを実施
行政は分別収集を充実するとともに、処理については、これまでの焼却中心型からバイオガス化等の資源循環(非焼却)型へ移行
リペア、リユースなどのサービスや価格は高いが長く使える逸品などにより産業の活力は維持・増強される

言わば

市民・事業者連携、
行政サポート型

発生抑制強制型

ごみを出さないライフスタイルへの変革とEPR適用により、市民・事業者自らがリサイクル
将来的には、行政のごみ処理は原則として廃止し、なお排出されるものについても、民間としての事業へ移行
EPR等民間による回収・リサイクルのコストは直接・間接に市民が負担する

言わば

市民・事業者の
自己責任・リサイクル型

3つのシナリオが描く将来社会像

シナリオ1

【従来トレンド型】

【キーワード】 使い捨て文化、リサイクル強化、エネルギー回収最大化、ゴミ処理費増大

【社会 イメージ】 これまでと同様に、大量生産・大量消費の結果、廃棄物として排出されたものを行政が回収し、処理・リサイクルする。その際には、分別収集を拡充・強化するとともに、焼却処理についても、順次、高効率な発電を導入し、廃棄物からエネルギーを最大限回収するシステムへ移行する。市民はごみの分別をしっかりとやれば、あとは行政が税金でなんとかしてくれるので、手間としては楽チン！分別収集コストがかさみ、資源・エネルギーを最大限回収するための施設整備にも多大なコストを要するため、ごみ処理に要する税金の比率は増大する。その分、福祉等の他の行政ニーズに回せる税金は抑制され、サービスレベルが低下する。

市民

分別数を現状より倍増させ20品目とし、リサイクルを徹底して追及。



事業者

企業の自主的努力でごみ減量に取り組む。

行政

適正処理、リサイクル施設などの建設・管理を行う。

- ・クリーンセンター 5 4 体制へ
- ・リサイクル施設 2 5 体制へ
- ・最終処分場
リサイクルを徹底して行う結果、埋立量は減少し延命化が図れる。
- ・各施設は従来型の焼却を基本とするが、徐々に廃棄物からのエネルギー回収等を最大化するシステムに移行するとともに、有害物の高度処理を徹底する。



コスト

施設の建設や維持管理、リサイクルによる分別収集等に必要コストが増大し、福祉等その他の行政サービスレベルは低下する。

地球環境

経済活動の活発化により二酸化炭素の排出量は増加するとともに、急速な資源の枯渇により、有効なエネルギー源が見いだされなければ、産業は急速に衰退する。地球の環境容量をオーバーし、21世紀を乗り越えることは困難。



シナリオ2

【ライフスタイル改善・斬進型】

【キーワード】 ライフスタイルの改善、発生抑制・再使用重視、ゴミ処理費漸次減少

【社会 イメージ】 無駄なものは買わない、モノは大切に使うなど、現在のライフスタイルをちょっと改善すればできることから順次、市民、事業者自らが取り組む。行政が備えるべきごみ処理設備は、焼却中心から紙類、厨芥類のバイオガス化によるガス発電、燃料電池の水素供給センターなど資源循環型へと移行し、順次、有機性廃棄物の非焼却に向かう。市民自らが自覚を持って取り組むことが必要で、企業も自主的努力が必要（税金ではなく汗を！）物量ベースの消費フロー量は減少するが、リペア・リユースなどのサービスや価格は高いが長く使える逸品などにより産業の活力は維持、増強される。

市民

できるところからライフスタイル改善する。分別品目をやや増やさずリサイクルを推進。



事業者

減量計画書、K E S 等によるマネジメント強化、自主行動計画の策定など E P R を意識した積極的なごみ減量に取り組む。なお、従来型の経済活動は鈍化するが、一方で、リペア・リユースなどの3 R 環境産業も進展していく。

行政

企業・市民の取り組みの支援、企業と市民とのコーディネートを行う。なお発生する廃棄物については、市民の協力(分別など)を得ながら、新たに紙類、厨芥類のバイオガス化を行うなど、極力、廃棄物からの資源・エネルギーの回収を行う。また、ごみとしての発生抑制状況に応じ、順次従来型の施設整備を抑制(税金の投入を削減)していくことが可能。

- ・クリーンセンター 5 4 体制へ (規模縮小)
- ・リサイクル施設 2 3 体制へ
- ・最終処分場
発生抑制、リサイクルに取り組む結果、埋立量は減少し延命化が図れる。

コスト

ごみの発生抑制、リサイクルに努める結果、徐々に施設整備費が減少し、ソフト対策に税金投入が可能となる。

地球環境

二酸化炭素の排出量は増加傾向を止め減少に転じるとともに、斬進的に環境共生型社会に近づく。



シナリオ3

【発生抑制強制型】

【キーワード】 自然共生型ライフスタイル、発生抑制・再使用徹底、ごみ有料化、ゴミ処理費直接負担

【社会 イメージ】 生ごみなどの地域循環を図り、耐久財はできるだけ長期間使い、ごみは出さないライフスタイルへの変革を促す。どうしても発生せざるを得ない有害ごみ等や資源化可能なものについては、排出者責任、EPRの徹底による民間回収・リサイクルを原則とし、行政では受け取らない。EPR等民間による回収・リサイクルを実現するためのコストは直接あるいは製品価格に上乗せされた形で市民が負担する。物品の価格が押しなべて高くなるため、消費は抑制され、結果として経済活動の規模が縮小し、これまでのライフスタイルからの大きな変革、生活ベースのスローダウンが要求される。

市民

ライフスタイルの変革とリサイクルの徹底を図る。生ごみも各家庭でコンポスト化する。



事業者

排出者責任、E P R の徹底によりそれぞれの企業努力でリサイクルに取り組む。



行政

レジ袋税、使い捨て抑制条例の制定、ごみの有料化(フルコスト化)や集団回収等の拠点拡大等によりごみの排出抑制を徹底し、市としての焼却施設、リサイクル施設は順次廃止する。それでも排出される有害ごみや資源化物等については民間での回収、処理・リサイクルを誘導する。

- ・クリーンセンター 5 0 体制へ (有害物：民間処理施設へ)
- ・リサイクル施設 2 0 体制へ (資源化物：民間リサイクル施設へ)
- ・最終処分場
災害時に発生する廃棄物の埋立地として確保



コスト

施設の建設や維持管理に必要なコストが削減されるため、福祉等その他の行政サービスに税金が投入される。一方で民間の回収・リサイクルが有料の場合には、不法投棄の増大も懸念され、その対応のために行政コストがかかることも考えられる。

地球環境

スローなライフスタイルの普及により、二酸化炭素の排出量は減少する。ただし、経済活動は縮小するため、ライフスタイルの大幅な変革がないと、持続可能な社会にならない。



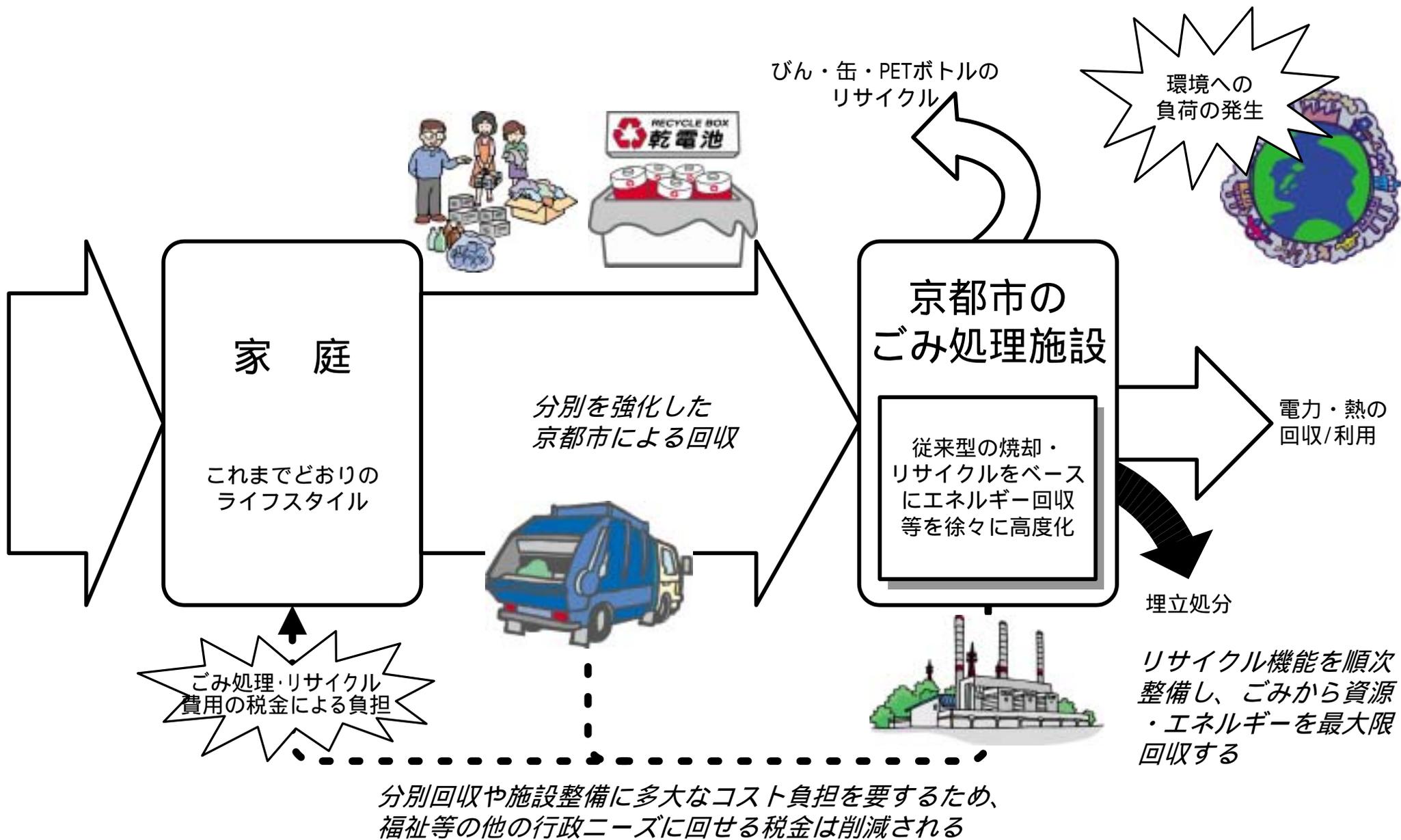


図 A 従来トレンド型

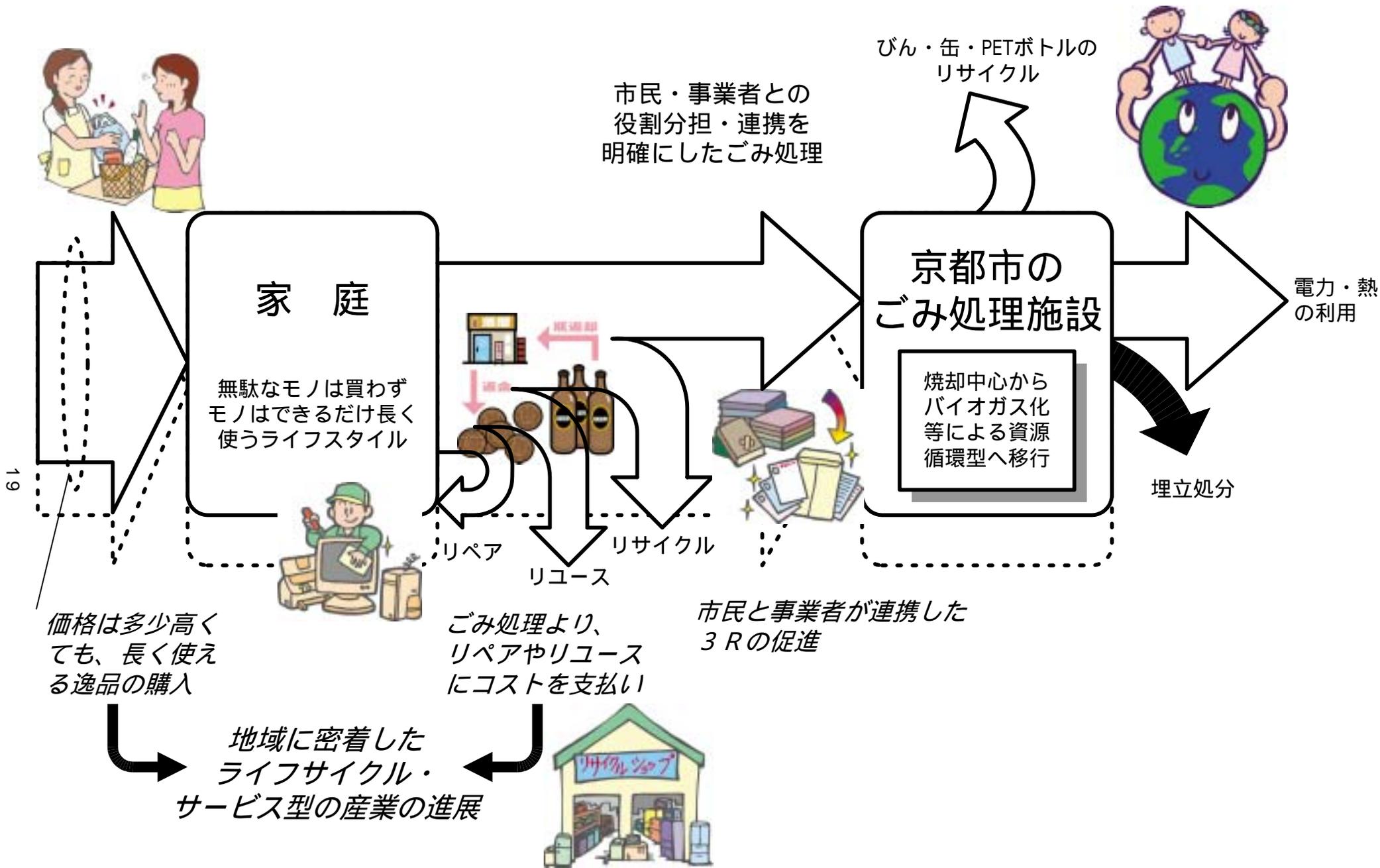


図 B ライフスタイル改善・漸進型

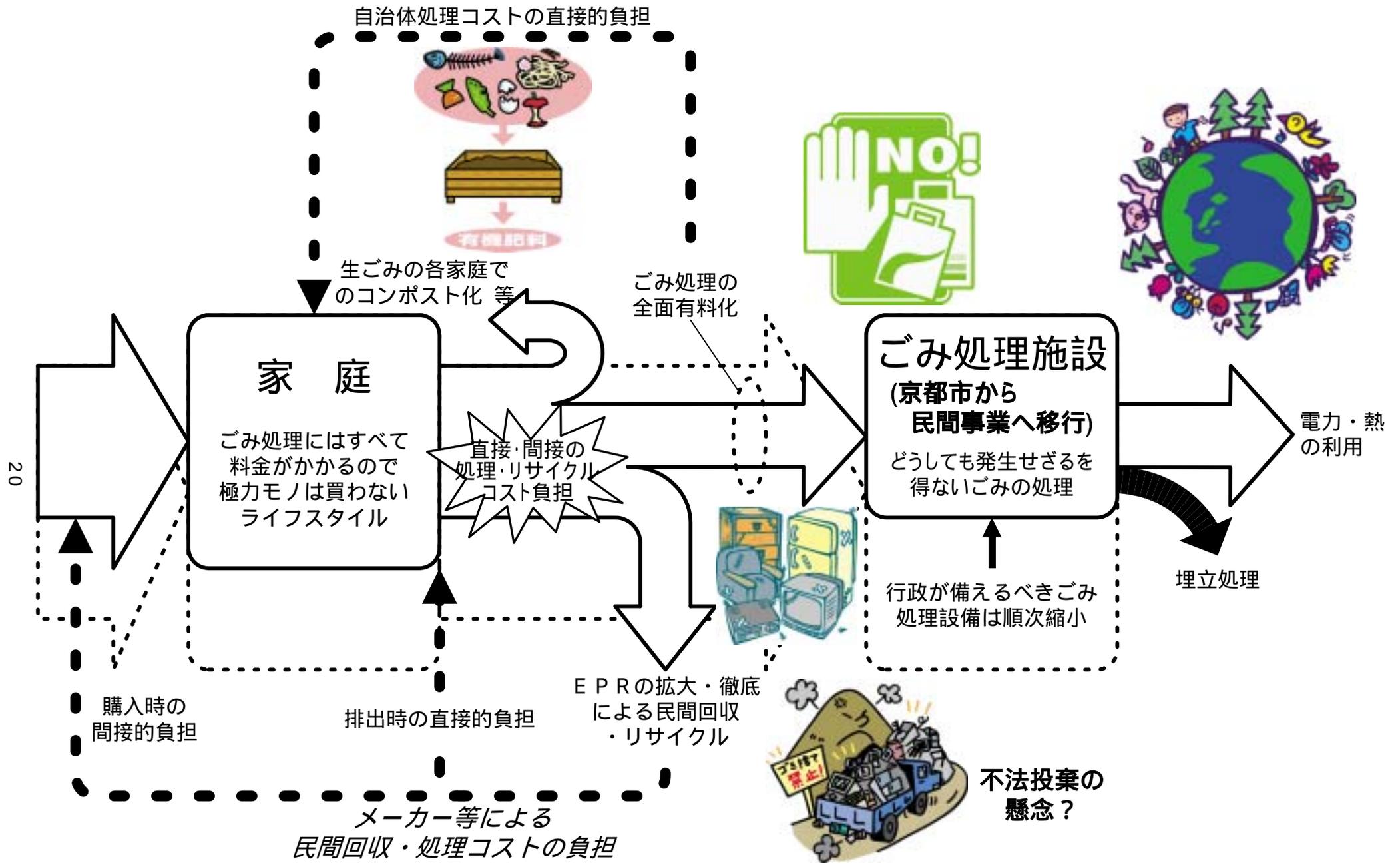


図 C 発生抑制強制型

あなたのライフスタイル は？ :エコライフ 度チェック

ある日、きらくとうさん（40才）と息子のじゅんくん（12才）がしまつおばあちゃん（65才）と買い物に行くことになりました。行き先は、2km先にあるスーパーや小売店が軒を並べる商店街です。3人は、行く先々で生活に密着したごみ問題や環境問題について自分の意見を話してくれます。とくにじゅんくんは学校でいろいろと学習しているようです。でもちよっぴりわがままも。さて、あなたならどうする？

ショッピング

食料品売り場 玉葱購入

きらく：このネットに入った玉葱
安いから買おうか
じゅん：でもばら売りを買う方が少
し値段は高いけど食べ残し
が出ないからいいんじゃない
しまつ：あっちで地場産の有機栽培の
玉葱の販売をしていたよ。
高いけど体にいいんじゃない
かねえ。
1. ネット入り
2. バラ売り
3. 地場産

生活用品売り場 ティッシュペーパー購入

きらく：この5箱入りのものが今日
安いから買っておこうか
じゅん：でもそれパーজনパルプ商品
だよ。こっちのリサイクル
商品の方が環境にいいんだよ
しまつ：ティッシュペーパー、まだうち
にあったよ。安いからといっ
て今日買う必要ないのでは
1. パーজনパルプ商品購入
2. リサイクル商品購入
3. 購入しない

レジにおいて

しまつ：買い物袋をもって来たから
ね。レジ袋はいらないよ。
きらく：でもレジ袋は、家でごみ袋
などに使えて重宝だよ。
もらっておこうよ。
じゅん：おばあちゃん。家にトレイや
紙パックがあったよ。ここで
回収しているからもってく
ればよかったね。
1. レジ袋をもらう
2. レジ袋を断る
3. 買い物袋持参といつも
リサイクルを心がける

我が家

さあ、でかけよう

きらく：時間ももったいないから
車で行こうか
じゅん：天気もいいし、みんなで
歩いていこうよ
しまつ：商店街は混雑しているから
電車でいったらどお
1. 車
2. 電車
3. 徒歩

さあ、どうでしたか。あなたの場合に当てはめて下さい。
各ポイントでのあなたのライフスタイルをチェックして下さい。
それぞれの地点でのエコポイントは、次の通りです。

1を選んだ人	0点
2を選んだ人	1点
3を選んだ人	2点

あなたのエコライフ度は？

合計点	評価
0～5	ふつう
6～10	ややたかい
11～14	たかい

酒屋さんにおいて

きらく：ビールが切れてたな。500
mlの缶ビール2ケース届け
てくれ。
しまつ：びんビールにしたらどう。
きらく：びんビールは何回も使えるし
環境にはいいと思うんだけど、
重いし場所をとるしね。それに
缶もリサイクルできるしね。
じゅん：量り売りの酒屋さんがある
ってきいたよ。それならもっ
と環境にやさしいね。
1. 缶ビール
2. びんビール
3. 量り売り

帰り道で おもちゃの修理

じゅん：ぼくのラジコン古くなったか
ら新しいのを買ってよ。
しまつ：もったいないよ。修理して大事
に使えば。
きらく：修理すればかえって高くつくこ
と多いんだよ。誰かにあげるか
フリーマーケット等に出して
新しいのを買えば。
1. ごみに出して新しいのをかう
2. フリーマーケット等に出して新しいのをかう
3. 愛着を持ち修理して使う

食事をめぐって

きらく：そろそろお腹がへったな。
今日はかあさんも留守だし
弁当でも買って帰ろうか。
じゅん：ぼくレストランで食事したい
な。ハンバーグ大好き。
しまつ：家に残り物があるし、私がつ
くるから家で食べようよ。
1. 出来合弁当
2. レストラン
3. 家で自炊